

H i - F i P e r s o n a l H a n d s e t

版權と商標

Copyright © Linn Products Limited

Linn Products Limited, Floors Road, Waterfoot, Glasgow, G76 0EP,
Scotland, United Kingdom

すべての権利を留保します。発行者の書面による許可なく、本書のいかなる部分も、電子的、機械的、複写装置使用、記録など、いかなるかたちにおいても、また手段のいかんを問わず、複製、保存、転送することはできません。

Printed in United Kingdom

Sondekは、Linn Products Limitedの商標です。

本書記載事項は情報提供のみを目的としたもので、通告なく変更されることがあります。また本書記載内容をリン・プロダクツ・リミテッドが公式に保証することはありません。本書の記載が不正確であったり、記載に誤りがあったとしても、弊社では一切の責任を負いません。

部品番号 : PACK 199/J

本書は、英国ケンブリッジのHuman-Computer Interface Ltdによって製作されました。

目 次

| | | | |
|------------------------------|---|--------------------------------|----|
| はじめに | 2 | KNEKT システムのコントロール | 12 |
| キーのレイアウト | 3 | KNEKT システムの選択 | 12 |
| | | ソースのコントロール | 12 |
| | | その他の機能の選択 | 13 |
| オーディオソースのコントロール | 4 | | |
| オーディオソースの選択 | 4 | | |
| チューナーの選択 | 5 | HiFi パーソナル・ハンドセットの | |
| オーディオソースの操作 | 6 | プログラミング | 14 |
| | | ハンドセットのプログラミング | 15 |
| | | ソースのクリア | 16 |
| | | 2台のハンドセットの配置 | 17 |
| | | 各キーのコマンド学習 | 19 |
| | | 学習の問題解決 | 21 |
| | | | |
| | | 保 守 | 24 |
| | | HiFi パーソナル・ハンドセットのクリーニング | 24 |
| | | 乾電池の交換 | 24 |
| | | | |
| | | 他の装置のコントロール | 26 |
| | | | |
| | | 索 引 | 28 |

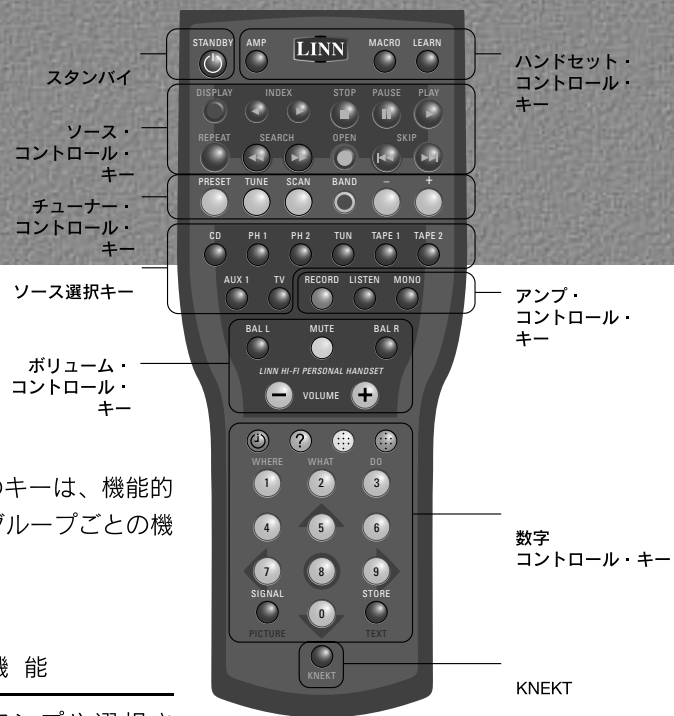
はじめに

Linn HiFiパーソナル・ハンドセットは、お手持ちのオーディオ、ビデオ機器のほぼすべてを片手で操作することを可能にする、ユニークな装置です。

手に心地よく納まるよう独特の曲線で形作られ、キーは大型で読みやすく使いやすくなっています。もちろん、テーブルの上に置いて使うことも可能です。

ハンドセットは予めプログラムされたキーを装備しており、これでご使用システム中の他のリン社製品 (CDプレイヤー／チューナー／アンプ) を完全にコントロールすることができます。また、プログラム済みのコマンド内容を、他の赤外線リモートコントロールのハンドセットから学習した新しいコマンドに置き換えることも可能です。この機能を使えば、HiFiパーソナル・ハンドセットを用いて、他メーカーの機器を含め、お手持ちの全システムを操作することができます。

さらに、押された一連のキーを学習するようにHiFiパーソナル・ハンドセットをプログラムすれば、頻繁に行う操作に対する便利なショートカットを創り出すことができます。



キーのレイアウト

HiFiパーソナル・ハンドセットのキーは、機能的に分類して配置されています。グループごとの機能を下にまとめました。

| グループ | 機能 |
|------------------|---|
| スタンバイ | アンプや選択されたオーディオソースのスイッチを入れ、スタンバイの状態にする。 |
| ソース・コントロール・キー | 選択されたソースを操作する。 |
| チューナー・コントロール・キー | チューナーを操作する。 |
| ソース選択キー | ソースを選択し、ソースと数字コントロール・キーを関連付ける。 |
| ボリューム・コントロール・キー | アンプやTVのボリュームを調節する。 |
| ハンドセット・コントロール・キー | 任意のシステムを操作できるように、HiFiパーソナル・ハンドセットを設定する。 |
| アンプ・コントロール・キー | アンプを操作する。 |
| 数字コントロール・キー | 選択したオーディオソースをコントロールする。 |
| KNEKT | KNEKTマルチルーム・システムと併用し、KNEKTコントロール・キーを選択する。 |

オーディオソースを選ぶ

- 選びたいソースの選択キーを押さえると、**MACRO** インジケーターが点滅します。

例えば、CDを選択したい場合：

- **CD** ソース選択キーを押し続けます。

これにより、ソース・コントロール・キーがCDプレイヤーを操作できる状態になり、CDからの入力がアンプに伝えられます。

オーディオソースを選択せずに、ソース・コントロール・キーを構成する

- 操作したいソースの選択キーを短く押し、**MACRO** インジケーターが点滅しないうちに、離します。

例えば、CDからの入力をアンプに送らずに、CDプレイヤーを操作したい場合：

- **CD** ソース選択キーを短く押して離します。

これにより、チューナーの音を聴きながら、CD入力をアンプに伝えずに、CDプレイヤーからCDを出すことができます。

チューナーの選択

他のオーディオソースとは異なり、チューナーには専用のコントロール・キー・セットが装備されています。

チューナーソースを選ぶ

- **TUN** ソース選択キーを押さえると、**MACRO** インジケーターが点滅します。

これにより、アンプがチューナーからの入力を選び、チューナー・コントロール・キーと数字コントロール・キーがチューナーを操作できる状態になります。

アンプとプリアンプのコントロール

この章では、HiFi パーソナル・ハンドセットを使って Linn プリアンプを操作し、オーディオソースの選択、ボリューム調節、スタンバイ・モード選択などを行う方法を解説します。

アンプの選択

AMP ハンドセット・コントロール・キーを使って、アンプ・コントロール・キーで操作するアンプを選ぶことができます。

アンプを選ぶ

- **AMP** ハンドセット・コントロール・キーを押すと、アンプ間でスイッチが切り替わります。

MACRO インジケータは、Linn アンプへのコマンドが選択されると1回、第2のアンプへのコマンドが選択されると2回点滅します。

アンプの操作

選択したアンプを操作する

- ボリューム・コントロール・キーまたはアンプ・コントロール・キーのひとつを押して、選んだアンプを操作します。

例えば、「聴く」コマンドを送りたい場合：

- **LISTEN** アンプ・コントロール・キーを押します。

アンプをスタンバイ状態にする

- **STANDBY** キーを押します。

ボリューム・コントロール

ボリューム・コントロール・キーは通常、どのオーディオソースを選択しているかに拘わらず、アンプのボリュームを調節します。

あるいは、特定のオーディオソースについて、ボリューム・コントロール・キーがTVのボリュームを調節するように、HiFiパーソナル・ハンドセットをプログラムすることもできます。

例えば、ビデオの音をアンプではなくTVから聴くことが多い場合、オーディオソースがビデオ・コマンドを学習するようプログラムすれば、ビデオが選択されると、ボリュームキーがTVボリュームを操作ようになります。

ボリュームを調節する

- **VOLUME +** および **-** のキーを使います。

ミュートにする

- **MUTE** キーを押します。

バランスを調整する

- **BAL L** か **BAL R** を押します。

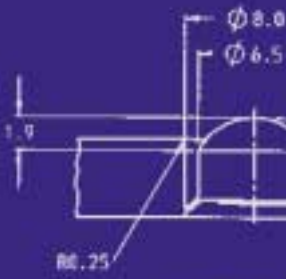
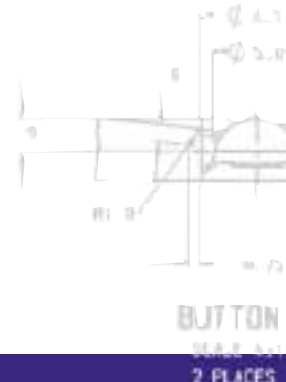
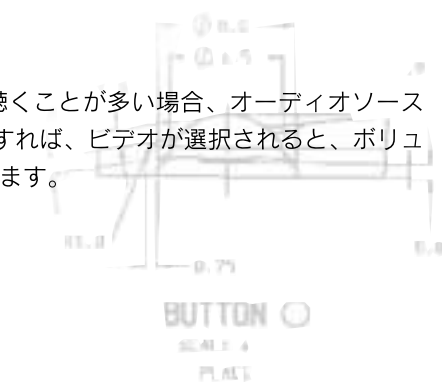
ボリューム・コントロール・キーを新しいオーディオソースに合わせる

- 変えたいオーディオソースのソース選択キーを押します。
- 2秒以内に、**VOLUME +** と **-** のキーを同時に押します。

これを行うたびに、対象となるオーディオソースは、アンプボリュームとTVボリュームの間で切り替わります。

例えば、ビデオ用に **TAPE 2** キーを使っていて、ビデオを選択したときにボリュームキーでTVボリュームを調節したい場合：

- **TAPE 2** を押し、次に **VOLUME +** と **-** を同時に押します。



マクロを使って

この章では、HiFi パーソナル・ハンドセットのマクロ機能を解説します。
このパワフルな機能を利用すると、キー操作のシーケンスを登録し、
その後はキー1つで、そのシーケンスを再現して使うことができます。

いくつかのキーを特定の順に押すセットのそれぞれをマクロと呼びます。よく使う操作を10種類までマクロとして登録することができます。

例えば、CDプレイヤーをポーズ状態にして、TVのチャンネル1を選択する「ニュース・マクロ」を登録することができます。

マクロの登録

数字コントロール・キーの0～9に、それぞれマクロを登録することができます。各マクロについて、最大10回キーを押して登録することが可能です。

マクロを登録する

- **LEARN** ハンドセット・コントロール・キーを押します。

LEARN インジケーターが点灯して、HiFi パーソナル・ハンドセットがマクロを学べる状態になったことを示します。

- **MACRO** ハンドセット・コントロール・キーを押します。

MACRO インジケーターが点灯して、HiFi パーソナル・ハンドセットがマクロを登録できる状態になったことを示します。

- 数字コントロール・キー0～9のいずれかを選んで押します。

そのキーが登録するマクロに割り当てられます。

LEARN インジケーターがゆっくり点滅し、HiFi パーソナル・ハンドセットが一連のキーをマクロとして登録できる状態になったことを示します。

使用できる各コマンドは、次のタイプのいずれかです。

| 登録内容 | キーの押しかた |
|-------------|----------------------------------|
| キーを短く押す | キーを押し、1秒未満で離す |
| キーを長く押すコマンド | キーを1秒以上押し続ける |
| 1秒遅延 | MACRO ハンドセット・コントロール・キーを押す |

各コマンドを登録するごとに、**MACRO** インジケータが1回点滅します。

押したソース選択キーが、アンプのソースも選ぶように登録したい場合、キーを長く押すコマンドを使います。

操作する装置が次のコマンドを受信する前に多少の時間を必要とする場合、遅延を登録します。例えば、ビデオをスタンバイ状態にするコマンドを送った後、**PLAY** コマンドを出す前に多少の時間のずれを置きたい場合がこれにあたります。

各マクロには最大10種のコマンドを登録することができます。9つのコマンドを登録すると、**MACRO** と **LEARN** の両インジケータが点滅し、マクロの限界が近いことを示します。第10のコマンドを登録すると、マクロは自動的に保存されます。

マクロを保存する

マクロの登録を終えたら、

- **LEARN** ハンドセット・コントロール・キーを押します。

MACRO と **LEARN** の両インジケータが消灯し、マクロが保存されたことを示します。



マクロの再生

マクロを再生する

- **MACRO** ハンドセット・コントロール・キーを押し、次に再生したいマクロに対応する数字コントロール・キー**0**～**9**を押します。

マクロに登録されたコマンドが送信されると同時に、**MACRO** インジケーターが速いスピードで点滅し、シーケンスが終ると消灯します。

01.3

マクロ例

- 以下に、標準的な装置を操作するコマンドのシーケンス例を示します。ご使用の装置を操作するためにキーを押すシーケンスは、場合により異なります。

01.4

CDを一時停止してニュースを見る

CDを中断して、チャンネル1を選択する場合：

- **CD**、**PAUSE**、**TV** (1 秒間押し続ける)、**1**の順に押します。

ニュース終了後にCD演奏を再開する場合：

- **CD** (1 秒間押し続ける)、**PLAY**の順に押します。

01.5

CDプレイヤーから、聴きたい1曲を選ぶ

KARIK CD プレイヤーのトラック12を選ぶ場合：

- **CD** (1 秒間押し続ける)、**1** (1 秒間押し続ける)、**2**の順に押します。

TVでテレテキストの字幕を見る

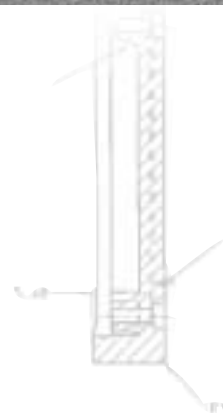
TVのチャンネル3のテレテキスト888ページを選ぶ場合：

- **TV** (1 秒間押し続ける)、**3**、**TEXT**、**MACRO** (遅延を置いてから次のコマンド)、**8**、**8**、**8**の順に押します。

KNEKT システムのコントロール

この章では、HiFi パーソナル・ハンドセットを使って
Linn KNEKT マルチルーム・システムをコントロールする方法を解説します。

ここでは、HiFi パーソナル・ハンドセットを KNEKT システムに使用する際の一般的な情報を掲載しました。KNEKT マルチルーム・システムはそれぞれ使用者の好みに合わせて構成されているので、特定のセットアップにハンドセットを用いる場合の詳細は、KNEKT オーナーズ・マニュアルを参照し、またセットアップ担当者にお尋ねください。



KNEKT システムの選択

KNEKT システムをコントロールするキーについては、以下の通りです。

KNEKT コントロール・キーを選ぶ

- **KNEKT** キーを押します。

これで、7つの KNEKT コントロール・キーから成るグループが選択できるようになります。



通常の操作を数字コントロール・キーに登録する

- ソース選択キーのいずれか、あるいはソース・コントロール・キーのいずれか、あるいはチューナー・コントロール・キーを押して、オーディオソースを選びます。

4 ページ「オーディオソースのコントロール」を参照。

ソースのコントロール

聴きたいオーディオソースの場所を選ぶ

- **WHERE** KNEKT コントロール・キーを押します。

キーを押すたびに、RCU ディスプレイ・システムが、メイン・システムとあなたのいる部屋との間で切り替わります。



何を聴くか選ぶ

- **WHAT** KNEKTコントロール・キーを押します。

キーを押すたびに、RCUディスプレイは、聴けるオーディオソースの間で、順番に切り替わります。

オーディオソースに何をさせるか選ぶ

- **DO** KNEKTコントロール・キーを押します。

キーを押すたびに、RCUディスプレイは、選択したソースに可能な機能の間で、順番に切り替わります。


選択したDO機能を実行する

- 黄色の  キーを押すと左の機能が、青い  キーを押すと右の機能が実行されます。

各キーの機能は、RCUディスプレイの右端の2つのシンボルにより示されます。


その他の機能の選択

時刻と日付を選ぶ

- KNEKT  コントロール・キーを押します。

キーを押すたびに、RCUディスプレイは、時刻と日付のフォーマット間で、順番に切り替わります。

RCU機能のヘルプを呼び出す

- KNEKT  コントロール・キーを押します。

RCUディスプレイに、該当するヘルプ・メッセージが表示されます。

HiFi パーソナル・ハンドセットのプログラミング

この章では、他の赤外線ハンドセットからのコマンドを
HiFi パーソナル・ハンドセットに学ばせるプログラムを解説します。
これにより、ご使用の装置すべてをコントロールすることができます。

HiFi パーソナル・ハンドセットは、最大9基の他の赤外線ハンドセットからコマンドを学習することができます。各コマンド・セットは、下記のソース選択キーで選ぶ8種のオーディオソースのひとつとして保存されます。

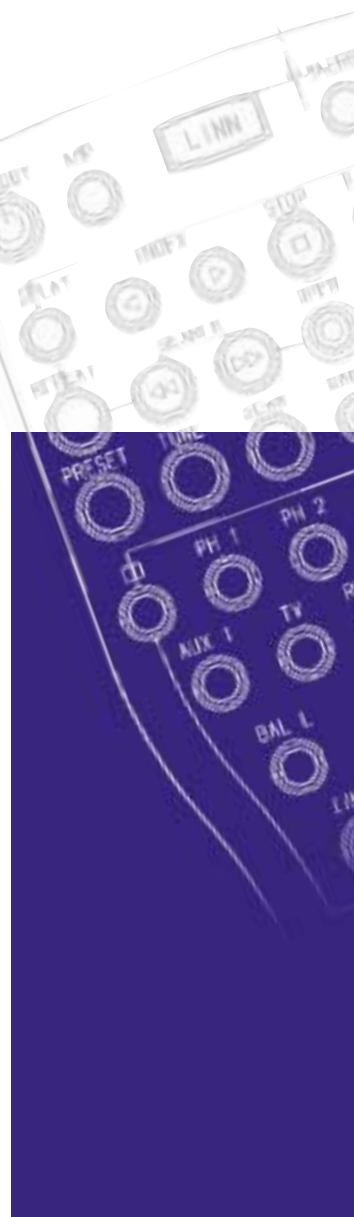
CD、PH 1、PH 2、TUN、TAPE 1、TAPE 2、AUX 1、TV

さらに、プリアンプへのコマンドを **AMP** キーを使って登録保存することができます。

次の表は、ソースごとに学習できるキーを示したものです。

| ソース | コマンド |
|---|--|
| TUN | チューナー・コントロール・キー、数字コントロール・キー、 STANDBY キー |
| TV | ソース・コントロール・キー、数字コントロール・キー、ボリューム・コントロール・キー、 STANDBY キー |
| CD、PH 1、PH 2、TAPE 1、TAPE 2、AUX 1 | ソース・コントロール・キー、数字コントロール・キー、 STANDBY キー |
| AMP | アンプ・コントロール・キー、ソース選択キー、ボリューム・コントロール・キー、 STANDBY キー |

各キー・セットについては、3ページ「キーのレイアウト」をご参照ください。



ハンドセットのプログラミング

次の手順で、HiFiパーソナル・ハンドセットをプログラムします。

古いソースをクリアして、新しいコマンドの受け入れを準備する

使用したいオーディオソースを選択し、不要になった以前のコマンドをクリアします。

2基のハンドセットを正しく置く

次の段階として、HiFiパーソナル・ハンドセットが他のハンドセットからのビームを読み取れるよう、両ハンドセットを適切に配置します。

各キーのコマンドを学ぶ

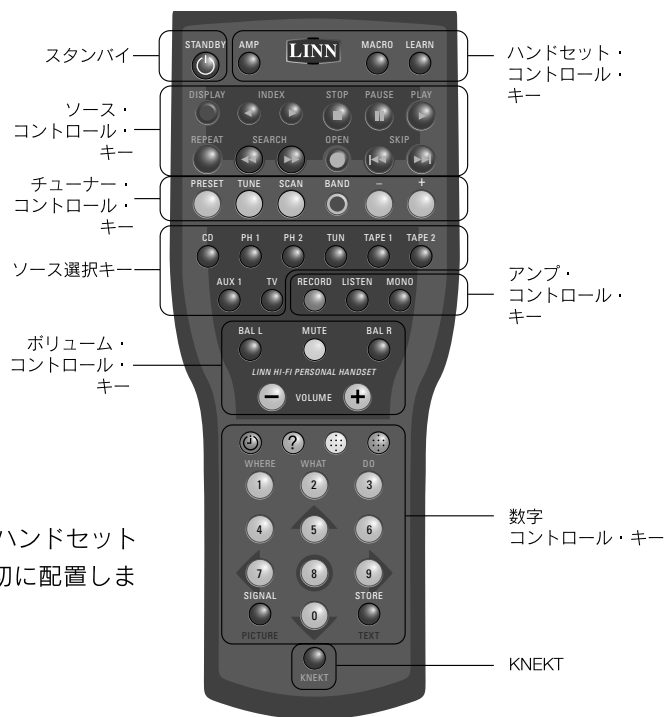
最初に他のハンドセットからのコマンドを学習する場合、HiFiパーソナル・ハンドセットは新しいハンドセットに合わせて自己修正を行います。そのため、HiFiパーソナル・ハンドセットがそのハンドセットの性質性能を学習する際、最初のキーを学ぶのに少なくとも3回繰り返していただくことが必要となります。

ひとつのキーだけでも学習してしまうと、HiFiパーソナル・ハンドセットはそのハンドセットの性質性能を記憶するので、その後のキーの学習は高速になります。これは時間がたってから、後日プログラムを加えても同様です。

他のハンドセットを離す

最後に他のハンドセットをどこかにしまい、HiFiパーソナル・ハンドセットでオーディオソースをコントロールします。

上記の各ステップは、以下にさらに詳しく解説されています。



ソースのクリア

コマンドを学習させる前段階として、使用したいソースを選びます。**CD**、**PH 1**、**PH 2**、**TUN**、**TAPE 1**、**TAPE 2**、**AUX 1**、**TV**の各ソース選択キーを使って、ソース・コントロール機能を学習させることができます。また**AMP**キーでアンプ機能を学ばせることもできます。

ソースを選ぶ

- 学習させるコマンドに適切なソース選択キーを選びます。

例えば、テープレコーダーのハンドセットから**PLAY**、**PAUSE**、**STOP**のコマンドを記憶させたい場合は、ソースとして**TAPE 1**を選ぶのが適切でしょう。

以前にプログラムされたコマンドをクリアする

- **LEARN**キーを押します。

LEARNインジケータが点灯し、HiFiパーソナル・ハンドセットがプログラムできる状態にあることを示します。

- クリアしたいソースのソース選択キーを押し続けます。

例えば、**TAPE 1**ソースを消去したい場合：

- **TAPE 1**キーを押し続けます。

LEARNインジケータが1度点滅し、HiFiパーソナル・ハンドセットがソースを選択したことを示します。

- ソース選択キーを押さえたまま、**LEARN**ハンドセット・コントロール・キーを押さえます。

5秒後に**LEARN**インジケータが消灯し、選択されたソースのコマンドがクリアされたことを示します。



2台のハンドセットの配置

HiFiパーソナル・ハンドセットに、お手持ちの他のハンドセットからコマンドを学ばせるには、両方のハンドセットを正しく配置する必要があります。

HiFiパーソナル・ハンドセットの赤外線レシーバーLEDを、他のハンドセットの赤外線発信部LEDに正確に合わせます。



赤外線発信部

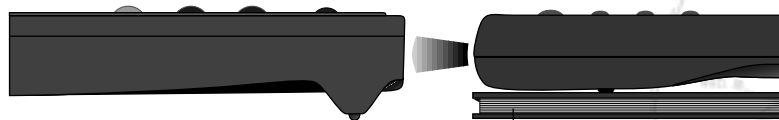
赤外線レシーバー

他のハンドセットの赤外線発信部LEDを見ることができれば、下記のように上下左右を合わせたとき、両ハンドセットが正確に配置されているのを目で確認することができます。

赤外線ウィンドウのかけになって赤外線発信部LEDを見ることができない場合、垂直方向を合わせるときには、ウィンドウの中心線に沿った点に見当をつけます。水平合わせの際には、**LEARN** インジケーターが正確な位置を示すのに役立ちます。

ハンドセットを垂直方向に合わせる

- 約指1本分の間隔を置いて、2つのハンドセットを平面上に置きます。
- 本や雑誌のページを使って、片方のハンドセットの高さを調節し、赤外線発信部を赤外線レシーバーと合わせます。



本や雑誌のページを使って、高さを調節。

ハンドセットを水平方向に合わせる

- **LEARN** キーを押し、**LEARN** インジケータを点灯させます。

この段階では、HiFiパーソナル・ハンドセットの他のキーを押さないでください。

- 他のハンドセットのいずれかのキーを押し続け、コマンドを発信します。

HiFiパーソナル・ハンドセットがコマンドを受信すると、**LEARN** インジケータが高速で点滅し、コマンドを受信されないときは点灯したままの状態になります。

- コマンドを発信している間、他のハンドセットを左右に動かします。HiFiパーソナル・ハンドセットがコマンドを受信すると、赤いLEDが点滅します。

HiFiパーソナル・ハンドセットがコマンドを受信しなくなり、LEDが点灯したままとなる限界点をご確認ください。

- 最良の信号を受信するために、ハンドセットを両限界点の中間に位置してください。



DET.
SCALE



TWO THROUGH SLOTS



たいていの赤外線リモートコントロール・ハンドセットは、キーが押されている間、連続的にコマンドを発信します。しかしキーによっては、たとえキーを押さえたままの状態でも、一瞬コマンドを発し、すぐ停止してしまうものもございます。連続的にコマンドを発信するキーを見つけられない場合、一連のコマンドを送るために、他のハンドセットのキーを繰り返して押し必要があるかもしれません。



各キーのコマンド学習

使いたいソースを選ぶ

並べたままの状態、**LEARN** インジケータは点灯したままになっており、HiFiパーソナル・ハンドセットが学習できる状態にあることを示します。

- 使いたいソースのソース選択キーを押します。

例えば、**TAPE 1** ソース選択キーを使いたい場合：

- **TAPE 1** キーを押します。

LEARN インジケータが1度点滅し、HiFiパーソナル・ハンドセットがソースを選択したことを示します。

キーを学習する

- HiFiパーソナル・ハンドセットのプログラムしたいキーを押します。

例えば、**PLAY** キーをプログラムする場合：

- **PLAY** キーを押します。

LEARN インジケータがゆっくり点滅し、HiFiパーソナル・ハンドセットが他のハンドセットのコマンドを受信できる状態にあることを示します。

- 他のハンドセットの学習したいキーを押さえます。


例えば、PLAY 機能を学習する場合：

- PLAY キーを押し、そのまま押さえます。

LEARN インジケータが速いスピードで点滅し、HiFiパーソナル・ハンドセットが他のハンドセットからコマンドを受信していることを示します。

LEARN インジケータが下記のいずれかの状態を示すまで、他のハンドセットのキーを押したままにします。

| 状態 | 意味内容 |
|-------------------------------------|--|
| LEARN インジケータの点滅が止まり、点灯状態となる。 | キーのプログラム完了。次のキーに進むことができる。 |
| LEARN インジケータが再びゆっくり点滅する。 | キーの学習は未完。他のハンドセットのキーをいったん離し、再び同じキーを押して再試行する。 |



キーによっては、3回以上の試行を重ねて学習される場合があります。8回試みてもプログラムしたいキーが他のハンドセットのコマンドを学習しないときには、次の「学習の問題解決」を参照してください。

キーの学習を終了する

- **LEARN**ハンドセット・コントロール・キーを押します。

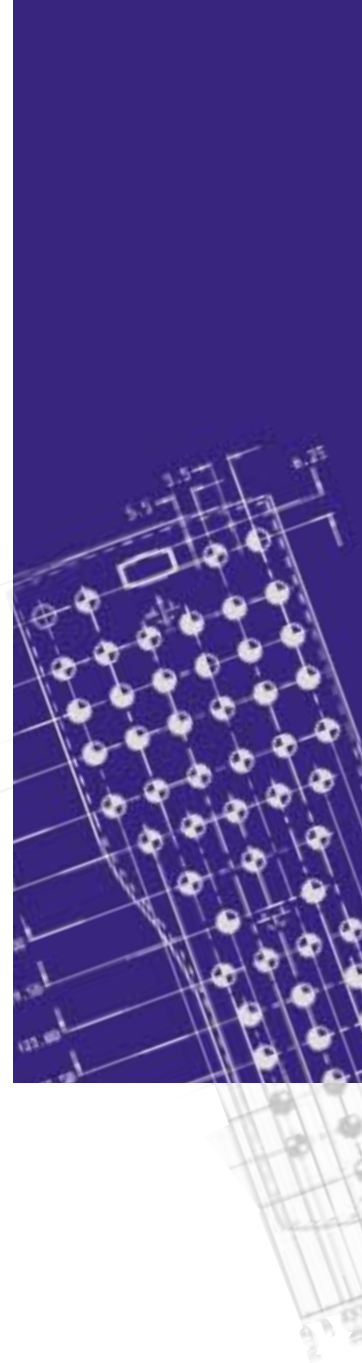
LEARN インジケーターが消え、HiFiパーソナル・ハンドセットが通常の使用状態に戻ったことを示します。

学習の問題解決

HiFiパーソナル・ハンドセットが他のハンドセットのコマンドを学習できない場合、また学習したコマンドを発信しても対象になる装置がその通りに作動しない場合があります。次の解決手段はそうした問題を解決するのに役立ちます。

| 問題 | 解説 | 解決手段 |
|-----------------------|---|---|
| 選択したソースの最初のキーが学習できない。 | 選択したソースに以前に学習したコマンドが残っており、それが他のハンドセットのコマンドと相容れない。 | 新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアして、学習プロセスを再度開始する。 |
| | 学習させているコマンドに、正しく検知されるのに必要なタイミング情報が欠如している。 | 新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアし、別のコマンドを最初にして、学習プロセスを再開する。 |
| | 他のハンドセットの乾電池が弱くなって、赤外線信号に歪みが生じている。そのハンドセットで通常の操作ができたとしても、このような状態となる可能性あり。 | 乾電池を交換して、再度試してみる。 |

| 問題 | 解説 | 解決手段 |
|------------------------|---|---|
| | 赤外線パワーが強すぎるか弱すぎるかして、他のハンドセットからの信号が誤って検知されている。 | ハンドセット同士をわずかに近づけるか、わずかに離すかして、学習プロセスを再開する。 |
| | 学習中にハンドセット同士の位置がずれて、タイミング情報が誤って検知されている。 | 新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアして、学習プロセスを再度開始する。学習プロセス中、ハンドセット同士の位置関係が変わらないようにする。 |
| 選択したソースの最初のキーだけが学習しない。 | プログラムした最初のキーのタイミング情報が、誤って検知されている。 | 新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアし、別のコマンドを最初にして、学習プロセスを再開する。 |
| | 学習中にハンドセット同士の位置がずれて、タイミング情報が誤って検知されている。 | 新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアして、学習プロセスを再度開始する。学習プロセス中、ハンドセット同士の位置関係が変わらないようにする。 |
| 学習できるキーもあるが、できないキーもある。 | 二重機能または多機能の赤外線リモートコントロール・ハンドセットからコマンドを学習する場合、異なるソースのコマンド・グループを学習する必要があることがある。 | 例えば、TV/ビデオ両用のハンドセットのコマンドを学習する場合、TVコントロールのコマンドを、ビデオ・コントロールのコマンドとは異なるソースに保存してみる。 |
| | 学習できないコマンドに追加的なタイミング情報が含まれており、すでに学習したコマンドのタイミング情報と相容れないものとして検知されている。 | 新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアし、異なる順序でコマンドを学ぶようして学習プロセスを再度開始する。学習できなかったコマンドを最初に記憶させる。 |



| 問題 | 解説 | 解決手段 |
|--|--|--|
| 受信する装置がコマンドにまったく反応しない、あるいは反応しても断続的である。 | HiFiパーソナル・ハンドセットの乾電池が弱くなって、赤外線信号に歪みが生じている。 | 乾電池を交換して再試行する。 |
| | HiFiパーソナル・ハンドセットの発信する赤外線に対して、受信する装置に「盲点」がある。 | HiFiパーソナル・ハンドセットをまっすぐ装置の赤外線レシーバーに向けて再試行する。 |
| | 学習プロセスの間に、コマンドのひとつがタイミング情報を誤って更新した。 | 他のコマンドに影響を与えているコマンドを見つける。そのためには、新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアして、学習プロセスを再度開始し、コマンドを学習することに受信する装置の反応を試してから、次に進む。装置が反応しなくなる直前に学習したコマンドに問題があることになる。 新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアして、学習プロセスを再度開始する。問題のあるコマンドから始めて、異なる順序でコマンドを学ぶようにして学習プロセスを再度開始する。 |
| 受信する装置が学習したコマンドのいくつかに反応しない。 | 機能しないコマンドに、追加的なタイミング情報が必要である。 | すでに学習したコマンドを消去せずに、機能しないコマンドを再学習させる。 |
| | 機能しないコマンドに追加的なタイミング情報が必要で、それが機能するコマンドのタイミング情報と相容れない。 | 新しいコマンドを学習できるようにソースを確実にクリアし、異なる順序でコマンドを学ぶようにして学習プロセスを再度開始する。機能しなかったコマンドのひとつを最初に記憶させる。 |

保 守

この章では、HiFiパーソナル・ハンドセットのクリーニング方法と、乾電池の交換について解説します。

HiFiパーソナル・ハンドセットのクリーニング

HiFiパーソナル・ハンドセットの汚れを落とす

- ほこりや髪の毛などを除くには、セロテープやマスキングテープを使うのが効果的です。異物がテープに付着し、ハンドセットの汚れが取り除けます。

乾電池の交換

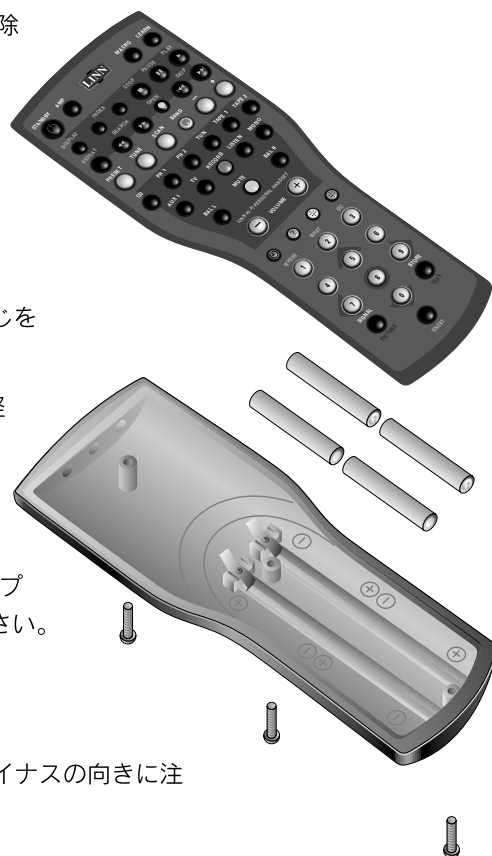
HiFiパーソナル・ハンドセットを開ける

- 小型プラス・ドライバーを用いて、ハンドセットの背面の3個のねじを外します。
- ハンドセットを下向きにして手のひらで押さえ、狭まった部分を軽くたたくと、フロントパネルがケースから外れます。
- ハンドセットを上向きにし、フロントパネルの端を持って上に持ち上げ、完全に外します。

警告：静電気によってハンドセットに損傷を与えるのを避けるため、プリント回路板の銀の接触部やコンポーネントには手を触れないでください。

乾電池を交換する

- 古い乾電池を取り外し、新しい単3電池4本を入れます。プラス/マイナスの向きに注意してください。



新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないこと。

ハンドセットの組み立て

- ハンドセットのケースにパネルを戻し、まず、3つのLEDをケースのそれぞれの穴にはめます。
- 必要なら、ゴム膜の端をケースに押し込みます。
- 3個のねじをはめて、ていねいに締めます。



ねじは締めすぎないように
注意してください。

他装置のコントロール

HiFiパーソナル・ハンドセットで他の装置をコントロールする場合の詳細は、以下の通りです。

CD

| HiFiパーソナル ハンドセット・キー | CD12 | KARIK MIMIK | RC-5 CD Player System 20 |
|------------------------|-----------------|-----------------|-----------------------------|
| STANDBY | | | スタンバイ |
| DISPLAY | 次ディスプレイ・ モード | 次ディスプレイ・ モード | スクロール・ローカル・ ディスプレイ |
| ◀ INDEX | 前インデックス | 前インデックス | 前インデックス |
| INDEX ▶ | 次インデックス | 次インデックス | 次インデックス |
| STOP | 停止 | 停止 | 停止 |
| PAUSE | ポーズ | ポーズ | ポーズ |
| PLAY | プレイ | プレイ | プレイ |
| REPEAT | リピート | リピート | 連続リピート |
| ◀◀ SEARCH | 後ろにサーチ | 後ろにサーチ | |
| SEARCH ▶▶ | 前にサーチ | 前にサーチ | |
| OPEN | ドロワー開閉 | ドロワー開閉 | ドロワー開閉 |
| ◀◀ SKIP | 前をスキップ | 前をスキップ | 前へ |
| SKIP ▶▶ | 次をスキップ | 次をスキップ | 次へ |
| 赤 | | | シャッフル/1回リピート |
| 緑 | | | リピートA/Bプログラム |
| 黄 | | | ダイナミックレンジ拡大 |
| 青 | | | ダイナミックレンジ縮小 |
| 0~9 | 0~9 | 0~9 | 0~9 |
| PICTURE/SIGNAL | | | ユーザー情報表示 |
| TEXT/STORE | | | 保存実行 |

PH1/PH2

HiFi パーソナルハンドセット・キー RC-5 Audio Stack Record Player Combi, System 21

| | |
|----------------|-------------------|
| STANDBY | スタンバイ |
| DISPLAY | スクロール・ローカル・ディスプレイ |
| ◀ INDEX | 前インデックス |
| INDEX ▶ | 次インデックス |
| STOP | 停止 |
| PAUSE | ポーズ |
| PLAY | プレイ |
| REPEAT | 連続リピート |
| ◀◀ SEARCH | |
| SEARCH ▶▶ | 前へスキップ |
| OPEN | 開閉 |
| ◀◀ SKIP | 前のオプション |
| SKIP ▶▶ | 次のオプション |
| 赤 | |
| 緑 | |
| 黄 | |
| 青 | |
| 0～9 | 0～9 |
| PICTURE/SIGNAL | |
| TEXT/STORE | 保存実行 |

索引

| | |
|-------------------------------|-------------------------|
| AMPハンドセット・コントロール・キー 7 | コントロール・キー |
| KNEKTキー 3, 12 | KNEKT 12 |
| KNEKTコントロール・キー 12 | アンプ 3, 7 |
| KNEKTシステムのコントロール 12 | 数字キー 3, 12 |
| KNEKTシステムの時刻と日付 13 | ソース 3, 5 |
| KNEKTシステムのヘルプ 13 | チューナー 3, 5 |
| LEARNハンドセット・ | ハンドセット 3, 9 |
| コントロール・キー 9, 16, 18, 20 | ボリューム 3 |
| MACROハンドセット・ | |
| コントロール・キー 9 | 再生 (マクロの) 11 |
| Standbyキー 3, 6 | 数字コントロール・キー 3, 12 |
| | スタンバイ |
| アンプ | アンプのスタンバイ 7 |
| スタンバイ・モードにする 7 | ソースのスタンバイ 6 |
| 選 択 7 | 選 択 |
| 操 作 7 | アンプ 7 |
| アンプ・コントロール・キー 3, 7 | オーディオソース 5 |
| | チューナー 5 |
| 学習の問題点 21 | 操 作 |
| 乾電池交換 24 | アンプ 7 |
| キーのレイアウト 3 | オーディオソース 6 |
| 交換 (乾電池の) 24 | チューナー 6 |
| コマンドの学習 19 | |

| | | | |
|------------------------|------|------------------------|---------------|
| ソース | | ハンドセット・コントロール・キー | 3 |
| KNEKTシステムでの選択 | 12 | AMP | 7 |
| KNEKTシステムのコントロール..... | 13 | LEARN | 9, 16, 18, 20 |
| スタンバイ・モードにする | 6 | MACRO | 9 |
| 選 択..... | 5 | ハンドセットの開けかた | 24 |
| 操 作..... | 6 | ハンドセットのクリーニング | 24 |
| ソース・コントロール・キー..... | 3 | プログラミング (ハンドセット)..... | 15 |
| 構 成..... | 5 | 問題点..... | 21 |
| ソース選択キー | 3-4 | ボリューム | |
| | | 調 節..... | 8 |
| 他装置のコントロール..... | 26 | ミュート..... | 8 |
| チューナー | | ボリューム・コントロール・キー..... | 3 |
| 選 択..... | 5 | 新しいソースに合わせる | 8 |
| 操 作..... | 6 | ボリュームミュート | 8 |
| チューナー・コントロール・キー | 3, 5 | マクロ..... | 9 |
| 登録 (マクロの) | 9 | 再 生..... | 11 |
| | | 登 録..... | 9 |
| バランス調節 | 8 | 保 存..... | 10 |
| 版 権 | 2 | 例 | 11 |
| 版権と商標..... | 2 | | |
| ハンドセット | | | |
| (プログラムのための位置合わせ) | 17 | | |

